

第4回死生懇話会

2023年3月18日(土)

13:30~16:00

滋賀県では、誰もが避けられない「死」とどう向き合い、そこから限りある「生」をどう捉えるか、そういった根源的なテーマを真正面から考えることで、より豊かに生きるためのヒントを得ようと、令和2年に「死生懇話会」を設置し、「死」を暮らしや地域の中から遠ざけず直視して、生きていることを大切にするなどについての議論をこれまで3回にわたって交わしてきました。

今回はその第4回目として、様々な「死」や「生」について考えながら、議論を深めていきたいと思っております。皆様の御聴講を心よりお待ちしております。

出演者(プロフィールは裏面参照)

オンライン
聴講可能

参加無料

ゲストスピーカー

- 國森 康弘 さん (写真家・ジャーナリスト)

写真講演

レンズを通して見つめ続けた「生」「老」「病」「死」
～限りがあるからみんなでつなぐ～

※懇話会冒頭で講演をしていただきます。
※講演で使用する写真の撮影は固くお断りいたします。

「死生懇話会」委員

- 打本 弘祐 さん
- 越智 眞一 さん
- 楠神 渉 さん
- 藤井 美和 さん
- ミウラ ユウ さん

ファシリテーター 滋賀県知事

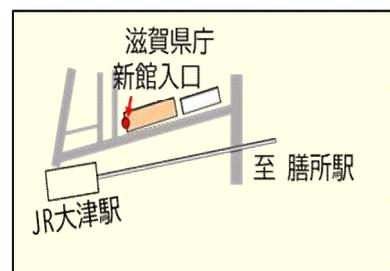
- 上田 洋平 さん
- 三日月 大造

定員

【会場聴講】100名(先着) @滋賀県庁 新館7階大会議室

【オンライン聴講】500名(先着)

※「Zoomウェビナー」を使用します。



お申込み方法

【2023年3月15日(水) 〆切】

しがネット受付システム(以下のURLまたは右記の二次元コード)からお申込みください。

<https://ttzk.graffer.jp/pref-shiga/smart-apply/apply-procedure-alias/siseikon>

※入力フォーム内で「オンライン聴講」、「会場聴講」のいずれかを選択してください。

※しがネット受付システムを利用できない場合は、お名前、ご住所、お電話番号、聴講方法を記載し、メール・郵送・FAXのいずれかで申込。



主催・問い合わせ先

〒520-8577 滋賀県大津市京町4-1-1 滋賀県 総合企画部 企画調整課(企画第二係)

E-Mail: kikaku02@pref.shiga.lg.jp TEL: 077-528-3312

出演者プロフィール

ゲストスピーカー 國森 康弘 さん 写真家・ジャーナリスト

1974年生まれ。京都大経済学研究科修士号、英カーディフ大ジャーナリズム学部修士号。新聞記者を経てイラク戦争を機に独立。イラク、ソマリア、スーダン、ウガンダ、ブルキナファソ、ケニア、カンボジアなどの紛争地や経済困窮地域を回り、国内では戦争体験者や野宿労働者、東日本大震災被災者たちの取材を重ねてきた。命の有限性と継承性がテーマ。滋賀や東北被災地、東京などで看取り、在宅医療、地域包括ケアの撮影にも力を入れている。著書に写真絵本『いのちつぐ「みとりびと」』（全12巻、農文協）、『生老病死そして生』（農文協）、『アネのバラ』（講談社）、『子ども・平和・未来 21世紀の紛争』（共著5巻、岩崎書店）、『笑顔がありがとう～家族と暮らす医療的ケアの必要な子どもたち』（サンライズ出版）など。



「死生懇話会」委員 (50音順)

打本 弘祐 さん 龍谷大学農学部 植物生命科学科 准教授

龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学（文学修士）、桃山学院大学大学院社会学研究科応用社会学専攻博士課程修了（社会学博士）。浄土真宗本願寺派僧侶。ビハラー僧として緩和ケア病棟や高齢者施設での勤務を経て、2015年4月に龍谷大学文学部へ着任、2020年4月より現職。現在は医療福祉現場での宗教者の活動を研究しつつ、仏教を通して学生へ死と生を考える講義を行なう。



越智 眞一 さん 一般社団法人 滋賀県医師会 会長



京都府立医科大学を卒業後、病院勤務を経て、大津市内にて開業。以来、開業医として地域住民の疾病予防や健康管理に精力的に従事してきた。大津市医師会の役員として介護保険制度への対応や認知症施策の充実に貢献、2008年4月大津市医師会会長に就任。2010年4月からは滋賀県医師会理事を努め、救急災害医療体制の整備を行政とともに推進する活動に尽力、2018年4月に滋賀県医師会長に就任し、滋賀県の保健・医療・福祉の向上と充実に努めている。

楠神 渉 さん 滋賀県介護支援専門員 連絡協議会 副会長

主任介護支援専門員、社会福祉士、介護福祉士。2001年より介護老人福祉施設で勤務。地域との連携をより深められないかと2007年にNPO法人加楽を設立。東近江市内の田園地区で、高齢者向けの居宅介護支援、通所介護、介護保険外事業や地域活動などを行っています。「子どもも、お年寄りも、障がい者も外国人も、みんなで地域のことを考えていければと思います」



藤井 美和 さん 関西学院大学人間福祉学部人間科学科 教授（死生学研究者）



研究領域は、死生観、クオリティー・オブ・ライフ（QOL）、スピリチュアリティ。新聞社勤務中、神経難病を発症。全身麻痺となり、半年の入院、2年半のリハビリを経験。これが死生学領域に関心を持つきっかけとなる。1994年関西学院大学大学院社会学研究科修了後、フルブライト留学生としてアメリカ、セントルイスのワシントン大学（Washington University）博士課程入学。1999年Ph.D.（博士号）取得。主著に「死生学とQOL」（単著）。「たましいのケアー 病む人のかたわらに」（共著）、「生命倫理における宗教とスピリチュアリティ」（共編著）。

ミウラ ユウ さん NPO法人 好きと生きる 理事 一般社団法人こどもエンターテインメント 代表理事

20代から各ボランティアに参加。結婚後10年間の不妊治療を経て緊急帝王切開で長男を出産。生きて生まれる確率3%といわれる難病で生まれた。長男が5歳の頃から病児を持つ保護者の悩みを傾聴するボランティアを始める。2018年 一般社団法人 こどもエンターテインメントを設立。外出困難や入院中の子どもにエンターテインメントを届ける事業を展開。福祉とエンターテインメントの融合により人々を幸せにするプログラム、子どもの人権について学ぶ機会を提供。また社会との関わりが困難な人のための居場所提供を実施。



ファシリテーター

上田 洋平 さん 滋賀県立大学 地域共生センター 講師



滋賀県立大学卒業（1期生）。滋賀県立大学大学院人間文化科学研究科地域文化学専攻博士課程単位取得退学。専門は地域文化学・まちづくり。風土に根ざした暮らしと文化の研究と実践に取り組む一方、地域と連携した人材育成や「地域共生」プログラムの開発も手掛ける。住民が協力し合って地域の暮らしの物語を「屏風絵」として描き上げるまちづくりの手法「心象図法」を開発。「死によって別たれるのではなく、死をも分かち合うことによって結ばれるのが人間であり、人間の共同体とはそこに発生するのではないかと思います」

滋賀県知事 三日月 大造



〈死生懇話会 ～「死」を捉えた「生」のあり方を考えるヒントに～（県ホームページ）〉

滋賀県では、死生懇話会のご紹介とあわせて、「死」「生」に関する様々な取組、考え方について色々な方にインタビューさせていただいた取材記事等を県ホームページでご紹介しています。

URL：<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/kousou/316588.html>

